緑丘小 絵をかく会の交流

かいはつ

36号

題字　六名小
6年　池田冴基

岡崎市現職教育委員会　特殊教育部会　　平成9年3月4日発行

いたわりの心

常磐小学校長
稲葉浩之

本校では、毎年秋の『常小フェスティバル』の時に、高学年児童が「みんなでチャレンジコーナー」を企画し運営しています。

これは親子が一緒に楽しむ催しで、本年度はペットボトルロケット・プラ板ホルダーなどの造形コーナー、輪投げ・車椅子体験・おばけやしきなどの体験コーナーが開かれました。

車椅子体験コーナーは毎年行っている催しで、車椅子は市内の車椅子センターから借用しています。

運動場にカーブや昇降のあるコースを作り、一周するタイムを測定しました。

私も体験しましたが、手で車を動かすのにかなりの力がいり、小さな上り坂でもなかなか上れませんでした。また、方向を変えるのもむずかしかったです。

障害のある人に出会った時、「かわいそうに」とか「不便だろうに」とは思っても、なかなかいたわりの心を言葉や行動で表すことはできないものです。もっと障害のある人の身になって考えなければいけないと実感しました。

四年生では車椅子の体験をもとに、学級活動の時間に車椅子用のスロープについて話し合いをしました。また、道徳の授業でも「思いやり・親切」についての資料を取り上げました。

特殊学級進路指導委員会

事業所見学会

・工場見学
・講演
・交流会

二月十九日に中学校特殊学級進路指導委員会の主催により、事業所見学会が行われました。午前中は、大和化成、八丁味噌、マルサンアイに分かれ、見学をしました。午後は、勤労文化センターに集合し、生徒は交流会、保護者・教師は、講演会に参加しました。

参加者は、生徒五十八名、保護者二十九名、教師二十三名、計百十名でした。

この見学会は、毎年この時期に計画されているもので、見学地の決定など、同委員会の長である岡崎市職業安定所で、たいへんな努力をいただき、実施のはこびになっています。

『生活の自立』、『働くこと』は、中学の生徒たちにとっては、目前に迫っている切実な目標と考えています。これは、保護者の方、担当教師の願いだけでなく、生徒本人の生きがいとも深いつながりがあります。そして、中学の卒業生の進学率が高まるなかで、単に『働くこと』が後三年伸ばされたということではないことを考えると『働くこと』がどういうことなのか、『生きることは』といったことも考慮していくことが大切と考えます。その機会の一つとして、この見学会を位置付けていきたいと思っています。

二年間、この見学会に参加することで、『働くこと』をより身近に感じることができるようになり、『働くこと』がどういうことなのかが、見学の面白さとは別に意識され、今後の家庭生活や学校生活に生かされていくことを強く望みます。

また、より実際的な場所を取り入れていくには、どのような見学会の持ち方があるかを今後の課題として考える時期となっていることを感じました。

講演会で学ぶ

城北中　岡安　美智子

本年度は、矢作産業株式会社の小山光春さんに、障害者と実際に接している中での豊富な経験からお話を伺うことができた。

「愛情の中に厳しさを持ち、根気よく、教えるというよりその子を育てる気持ちで」という指導者側の心得や、「常に積極的に声をかけ、できた時にはほめる」という方針は、企業のみならず、もちろん教員にも大切なことであるが、果たして自分自身は、自信をもって「できている」と言えるであろうか。日頃の指導を振り返るよい機会でもあった。

一貫して「障害者と共に人間どうしの触れあいを大切にし、職場での仲間意識を持ち、チームワークをつくっていく」という会社全体での取り組み、そして、小山さんのきめ細やかな心配りと温かなお人柄がひしひしと伝わってくるお話であった。そんな中で働く子だからこそ、終業五分前に、進んで灰皿を片付ける態度が身に付いていくのではないのだろうか。

短い時間であったが、とても有意義な時間を過ごすことができた。

追跡調査

岡崎市特殊学級進路指導委員会は、今年度で九年目を迎える。そこで、過去、特殊学級を卒業した生徒の動向を調べ、望ましい進路指導であったかを検証すると共に今後の参加資料とするために、追跡調査を実施することとした。

委員会内に追跡部会を設置し、以下のような項目を調査することとした。

①年度別卒業数の変遷と男女数
②年度別進路先の動向
③現在の状況（就職・自宅等）
④高等学校（高等部）の卒業・退学数

現在、各学校の卒業生の動向が届いており、三月上旬には結果を報告する予定である。

教材ポケット　紙すき交流

広幡小　兼松ゆかり

二年生の子どもたちが、生活科のお祭りに、五、六組の子どもたちを招待してくれました。

そのお礼に、紙すきをいっしょにやって、手作りはがきを作ることにしました。まず、自分たちで練習です。木枠の中に和紙の素（市販のパルプ）を入れ色紙や葉などをすき込んで、水の中から上げます。作るたびに違う模様ができるので子どもたちは夢中になっていきます。

いよいよ紙すき交流の日。人に教えるなんて・・と、S夫は自信なさそうです。でも、二年生の子はうまくはがきが作れたので大喜び。「S夫くんがじょうずにおしえてくれたのでうまくできました。うれしかったです。」と、あとで作文に書いてくれました。それをS夫に伝えると、「本当に？」と、満面に笑み。本学級の子どもたちは自分が人を喜ばせることができて、とっても満足だったようです。

就学相談について

豊田市こども発達センター　高橋　脩

障害者のお父さんやお母さんは子供の障害の現実に直面するさまざまな試練を経験し、それを通して障害を受容し発達に即した判断力や育児の力を育ててゆく。その過程を側面から支えるのが専門家の役割の一つである。幼児期の主な試練は診断告知、療育施設への入所、保育所（幼稚園）への入園、就学の四つの状況と関係している。

幼児期最後の試練が就学問題である。就学についていかに助言をするか。筆者の相談過程を参考までに記す。まず、問題を家庭で共有することの大切さを伝え、両親で下記の手順に従い行動し、よく考え決定するよう勧める。

(1)情報収集（一学期）学校と子供の発達（知的発達、身辺処理能力、情緒等）についての情報を収集する。

(2)学校訪問（一学期後半～二学期前半）両親で訪問をし教育方針を聞いたり、授業参観をする。

(3)決定（二学期末頃）。

(4)就学準備（三学期）学用品購入、環境に慣れるために母子で学校訪問、登校時間に合わせて早寝早起き等。

春が近づいた頃、家族で入学祝いをすることを勧め、相談を終える。

さらに、姉や兄がいる場合は、その意見に耳を傾け決定するよう助言する。同胞は障害のある弟や妹の就学に関連してさまざまに期待・心配をしているものである。彼らの思いを両親が大切に扱い、家族で問題を共有して就学先を決める。すなわち、試練を家族で共有して越えてゆくことによって、家族の絆を深める機会としてほしいとの思いからである。関係諸兄姉の参考になれば幸いである。

私の教室日記

Y君がおしえてくれたもの

六名小　荻野　明美

私の担任する二年四組は、わかば学級と交流をしている。

Y君はその学級の子で、学校行事や給食、体育の授業など一緒に行っている。

Y君は、明るく屈託がない。どの子に対しても、素直に自分の気持ちをぶつけていく。

私がY君のことで感心することが一つある。それは、友達に優しいことである。誰かが困っていたりけがをしたりするとすぐに「大丈夫。」と声をかけることができるのである。

クラスの子たちは、そんなY君が大好きである。何をするにもまっ先にY君のことを考えるのである。また、作業のやり方を教えたり生活の面で世話をしたりしている。子供たちにとってやってあげるという意識はなく当たり前のことなのである。

クラスの子がY君の身になって考え、Y君の気持ちを大切にしようとする心が育ってきたことをうれしく思う。

「ぼく、Y君と同じクラスになれてよかった。」

クラスの男の子が言ってきた。

交流を通して、Y君は、クラスの子に授業では学べないことを教えてくれたのである。

がんばってます⑧

ミユキ工業製作所

竹内正勝君

ぼくは、美川中学校を卒業して、春日台職業訓練校の機械科で学びました。そして、ミユキ工業製作所に就職させてもらい、二年目になります。

職場では、自動車の部品のプレスを受け持っています。係長さんは、細かいところまで教えてくれます。また、カラオケや食事に連れていってくれる方もいます。

春日台職業訓練校で、機械の知識や安全のこと、みだしなみを学んだことがとても役立っています。

今は、自動車の免許をとろうという希望をもって働いています。

学級スナップ

とめとりえもん

矢北小　たんぽぽ組

学級独自で北野町の郷土ばなし「とめとりえもん」の劇を学芸会で発表しました。病気の母を二人の子ども「とめ」と「りえもん」が助けていくはなしです。役者の人数が少ないため、校長先生やお母さんにも村人として協力していただきました。迫力があり、繰り返される村人の声をうけて、子どもたちも大はりきりで演技することができました。

お母さん方の名演技によって、子どもと一緒につくりあげた劇になり、学級の輪をより確かなものにすることができました。

子どもと親の集い

横井吉明

　このたび「かいはつ」への寄稿の依頼をいただきたいへん恐縮しております。私は昭和五十五年四月より六十年三月までの五年間、矢作東小学校で特殊教育に携わりました。特に特殊教育について専門的知識のない私のような者が五十七年・五十八年度と世話係という大役を受け、不安な気持ちでおりましたところ、お陰さまで指導主事・部長・指導員・職場・現職教育で出会った立派な先生方のご指導とご協力を賜り、楽しい貴重な体験をさせていただきました。

　紙上をお借りして改めて諸先生方に感謝致します。担任者会、委員会、講習、研修会、就学指導委員会、ライオンズクラブ招待の社会見学、「かいはつ」編集等と思い出は尽きませんが、中でも強く印象に残っていますのが、五十七年七月の少年自然の家で行われた全市特殊学級野外活動「親と子と教師の集い」の宿泊行事と五十八年十月に六名公園グランドで行われた全市特殊学級の運動会「子どもと親の集い」の二つです。共に市の援助を受け、また、声楽家としても有名な宮嶋幸代さんの特別なご厚志をいただいて、小中の特殊学級児童生徒及び保護者、教師のふれあい、語らいの場として企画されました。「山の学習」「運動会」共に初めての試みです。原則的に、種目演技は障害の程度、時間的なゆとり、安全に主眼を置いて推進され、親も教師も児童・生徒も一体となり、協力して自分たちの山の学習、運動会を作り上げていくところに、その大きな意義があると思います。いろいろと問題点もあったと思いますが、後日の児童・生徒の作文や保護者、教師の皆様のアンケートの結果、『とても楽しかった。どの子も本当にのびのびと楽しそう。のびのびと行動している中から新しい発見をしたり子ども達も自分の新しい面を発見した。自分でもやれるんだという自信をつけた子。参加することに意義がある。子ども達の目も輝き活気に満ちていた。』等々、好評をいただき関係された皆様も、とても満足されたと思います。

　ここに到るまでには、何度かの準備と企画があり、市・指導主事・部長・指導員・世話係・担任の先生方の立案と細かい運営計画等、頭の下がるような努力があったことを忘れることはできません。〝与えて求めず〟教師が動けば子どもたちも必ず動き出すと信じ、戸惑いの抜けきらない毎日。だからこそひとりの人間として、心と心の〝ふれあい〟を求めてぶつかりあっていくしかない。子どもはだれでも「これから伸びてゆく芽」をもっている。可能性に満ちている。焦らず、あきらめず、これからもこの子たちと歩んでください。

がんばったこと　楽しかったこと

根石小　鈴木信也

　ぼくががんばったことは、マラソン大会のときにいっしょうけんめいに走ったことです。練習のときは、学校の運動会や東公園のなかを走りました。苦しくてもがんばりました。

　修学旅行では、新京極での買い物が一番、楽しかったです。また、行きたいです。

根石小　三宅亜多留

　ぼくががんばったことは、縄とびです。前とびをがんばりました。今までで最高九回とべるようになりました。長なわとびでは十回以上とべました。いっしょうけんめい練習をして、もっと何回もとべるようになりたいです。

　楽しかったことは、修学旅行です。みんなと一緒におふろに入ったことが一番の思い出です。

中学校の思い出

六ッ美中　東郷寛文

　中学校の中で一番楽しかったのは、修学旅行です。その中でも楽しかったのは、三年一組のみんなと班別行動をしたことです。

　まず、浅草寺に行き、お参りしました。刀が欲しかったけど、ちょっと高かったので、安い十手を買いました。

　次にアメヤ横丁に行きました。ここには、自分の好きなCDがあると思ったけど、なくて残念でした。

　アメヤ横丁で昼ご飯を食べて、電力館へいきました。自転車をこいで発電したり、クイズを解いたりして、楽しかったです。

　一人では困ったと思うけど、班の子たちと一緒だったのでよかったです。卒業しても、このように協力して、がんばりたいです。

表彰

・第十八回愛知県特殊教育振興大会顕彰児童生徒　竜海中　鈴木祐也
（愛知県特殊教育推進連盟より）

・第十六回学級新聞コンクール小学校の部　入選　広幡小　六年五組
中学校の部　特別賞　美川中　七組
（東海日日新聞社より）